

「イスラエル」		北方・東方	
ユダ王国	イスラエル王国	アラム	アッシリア
<p>サムエル</p> <p>サムエル記上下、列王記上</p> <p>神のしもべ</p> <p>オテドの子アザバヤ</p> <p>先見者ハニ、その子エフ</p> <p>ヤハジエル</p> <p>エドム、リブナが反叛</p> <p>エドムがアマツヤに敗れる</p> <p>第22王朝の末期(紀元前9世紀後半)、エジプトは完全に弱体化</p> <p>エジプトは国内で四つの王朝が乱立し、内乱状態</p> <p>エドムが再び独立</p> <p>エドム人、ペリシヤ人、セム山地の民、ユダを襲撃</p> <p>BC716年、エチオピア系人 ビアンキの第25王朝が再統一、勢力を回復、反アッシリアを組織→アッシュドの反乱(714-711)</p> <p>ティルハツ(890-884)</p> <p>BC874-858 エジプトはアッシリア(アッシュルバナパル)の支配下に転ぶ</p> <p>ネコ一世(871-864)、その子 オプサティコス一世(864-810) 第28王朝成立</p> <p>アッシリアに管理を委ねられたサイス家による王朝 ※ヘロドトス『歴史』に詳しい記録</p> <p>BC658にアッシリアから独立、BC616にアッシリアを倒して新バビロニアとシリアで交戦</p> <p>※古王国や中王国風の戦術を手本とした復讐の策略</p> <p>第28王朝 ネコ二世(610-594)</p> <p>アッシリアに替ってユダの支配者になった。フェニキヤ諸都市と再び結びエズラを擁護した</p> <p>610、メソポタミア王を撃つ</p> <p>第28王朝 プサメテコス二世(593-589)</p> <p>第28王朝 ホラハ(アハズバ) (589-587)</p> <p>アフハス(アフハス二世/アハズバ) (589-525) 平民の出身、反乱によって王となる</p> <p>BC568 ネブカドネツルがバビロンを侵襲(アザバへの干渉を宣言する取返しの報復)</p> <p>アフハスの子 プサメテコス三世(525-525)</p> <p>BC525 エジプトはペルシヤの戦いで敗れ、第28王朝は終わる、ペルシヤの属州になる</p> <p>ナバテヤ人がエドムを襲撃する</p> <p>BC510 ローマがイタリアの支配権を握る</p> <p>BC398年、エレファンティナのユダヤ人植民地、家を潰す。</p> <p>BC332 アレクサンドロス、キプロスを陥没させ、メソポタミアに無血入城、アレクサンドリアの建設</p> <p>プロトメダイオス一世/ソテールが王位に就く(305-283)</p> <p>ユダヤを支配、自治を許した。多くのユダヤ人をアレクサンドリアに遷す。</p> <p>アレクサンドリアに大学、大図書館を建設</p> <p>プロトメダイオス二世/フィラデルフォス(285-246)</p> <p>アレクサンドリアで 70人聖書が成立</p> <p>プロトメダイオス六世(181-148)</p> <p>オプサス西遊で亡命し、ヒエラポリスに神廟を建設して、エルサレムに対抗。</p> <p>BC146 第三次マケドニク戦争終結</p>	<p>ガビズ(1004-985)</p> <p>アンモン(985-920)</p> <p>レハバム(アモンの子) (888、17年)</p> <p>アンモン、モアブの独立</p> <p>アビヤム(910、3年)</p> <p>統一王国を回復しようとしてエフライム山地で北王国と戦う</p> <p>アサ(908、41年)</p> <p>アラム系の母マアを擁する。ダマスコ同盟。</p> <p>北王国、特にエフライムとマサセの多くの人々が、ユダ王国に</p> <p>アラムに帰ったことを責められ、ハナニを殺害、民の一部を虐待</p> <p>ヨシャファト(868、25年)</p> <p>宗教的改革、町々に民を派遣して教化、モアブ・アンモンを撃退</p> <p>ヨラム(アタルヤ) (847、8年)</p> <p>イゼベルの娘アタルヤがバアルの祭儀を導入、エドムが独立</p> <p>アハズヤ(845、1年)</p> <p>北王国のヨラムと共にエフに即位する。</p> <p>アタルヤ(845、6年)</p> <p>ガビズの血縁を断とうとする</p> <p>ヨアシュ(840、40年)</p> <p>バアル神祇の破壊、ヨザダの死後に関心、臣下に暗殺された</p> <p>アマツヤ(831、29年)</p> <p>ユダのアンシャンに叛乱、神廟は略奪され、臣下に暗殺された</p> <p>アルバ(バウザ)(817-798、32年)</p> <p>イゼベルの再興。異質な種族の基盤を弱めた</p> <p>アッシリアに代って同盟軍を結成して戦う</p> <p>ヨラム(759、15年?)</p> <p>暗殺して、父の王位を継いだ</p> <p>アハズ(744-736、9年)</p> <p>16年(8年?) 734、728)</p> <p>アラムと北王国の連合に敗れる</p> <p>ティグラトピレセルに臣従し、アッシリアの祭儀を取り入れ、イゼバと対立</p> <p>ヒゼキヤ(728、29年)</p> <p>宗教的再興を推進、705、ネフシュタンを築き、異教的要素を排除。</p> <p>マナセ(696、55年)</p> <p>アッシリアの忠告を無視、臣下に暗殺。</p> <p>アモン(641、24年)</p> <p>クーデターで殺される。謀反者が「国の長」に殺される。</p> <p>ヨシヤ(640-609、31年)</p> <p>アッシリアからの独立、反エジプト政策継承、622、律法の書発見、628、異教的要素の排除、地方聖所の廃止、旧北王国の併合、スキタイ人の北からの脅威。</p> <p>ヨアハズ(609、3ヶ月)</p> <p>異教的再興が再開、地方聖所が開かれた。ネコに即位された。暗殺された。</p> <p>ヨヤキム(ヨヤキの子エルヤキム) (609、11年)</p> <p>ネコによって王に立てられた。エジプトへの貢納のために謀殺、新王朝建設、預言者ウリア判別、バビロン戦争による改革の最中に死す。</p> <p>ヨヤキム(ヨヤキムの子ヤコブヤ) (608、33ヶ月で執行され、捕囚) ※バビロンの宮廷で預言者イザヤの預言を信じた</p> <p>BC587 バビロン捕囚 第17年に出発。</p> <p>ザナブヤ(ヨヤキムの娘マタニヤ、606年自国に帰る) (597、11年)</p> <p>BC587-586 滅亡、捕囚、聖書編纂</p> <p>預言者 ザラフ (ヨシヤの宗教改革を遂げた書記官ツファン)の孫で、エシメは協力して再興を助けた。暗殺された。</p> <p>BC583 第3回捕囚 大部分の住民</p> <p>BC538 第二回捕囚</p> <p>行政官エフム、書記官シムシヤイ</p> <p>BC520 第三回捕囚</p> <p>祭司イェシヤフ</p> <p>BC520 ハバク、イデの子 ゼカリヤ</p> <p>アロン系のツァドク家が最大祭司を独占していく。前500に入ると思はれる。</p> <p>BC468 エズラ</p> <p>ユダヤ</p> <p>BC448 長官、ネヘミヤ、城壁再建</p> <p>BC400 日本語として アラム語 が定まる</p> <p>エルサレムの神祇共同体としての自治は認められていた。</p> <p>マケドニアの植民地となり、マケドニアの退役軍人が植民。</p> <p>BC46後半、ガザジ山上に、サマリア教団の神祇が建設される</p> <p>BC350 モーセ五書がほぼ完成</p> <p>ヘレスナは、セルクソス朝シリアプロトメダイオス朝エジプトの争奪の対象となり、六度のシリア戦争が起こる。(ダニエル書115-39)</p> <p>大祭司の家系オニアス家</p> <p>BC188 第五次シリア戦争の結果、プロトメダイオス朝に替ってセルクソス朝がユダヤを含むパレスチナを支配下ににおさる</p> <p>サンヘドリンの発展となるエルサレムの長老議会が存在した</p> <p>BC178 ヘレニズム風の マケドニアが元の「契約の民」 ヨナダニエル(189-171)を擁して大祭司に、エルサレムをヘレニズム化。</p> <p>BC172 一般祭司の メサセがマツを築き大祭司に、トビヤ家が支持、異なるヘレニズム化。</p> <p>BC168、187 ユダヤに対する異教の強い拒絶は宗教的再興</p> <p>BC168、187 ユダヤに対する異教の強い拒絶は宗教的再興</p> <p>BC161 マカベイの乱が始まる</p> <p>BC154年10月14日、エルサレム大神殿の再建(ハスモン朝)</p> <p>マカベイのユダ、ローマと同盟を結ぶ</p> <p>BC152 ユダの義のヨナタン、大祭司になる</p> <p>BC141 ヨナタンの息子が大祭司に、ハスモン王朝の始まり</p> <p>大祭司と王の地位を兼ねる支配者が誕生した</p> <p>ハスモン家に対する懸念は常に反乱運動を生み、それに押されて支配は暴君の性格になっていった。</p> <p>BC130年頃 ヨハネ・ヘルカノスはイマヤマに強制的に割礼を施し、ユダヤ教に改宗させた。</p> <p>BC128年頃 ヨハネ・ヘルカノスはガザジ山のサマリア教団の聖所を破壊、亀裂を決定的にした。</p> <p>BC107 旧北王国南西部を征服</p> <p>BC101 アリストプロス一世の連盟により、ガリラヤ地方がハスモン王国に含まれるようになった</p> <p>ガザジ山でサマリア教団の祭儀が再開された</p> <p>BC82 ペンベイクスのローマ軍に敗れて、事実上終わる</p> <p>風潮シリアに輸入される。植土はイスラエルの状況になった。</p> <p>BC71 カエサルによって、ユダヤの異教的支配権は、セルカノスに奪取するがサマリア人がバビロンからヘロドス王の父に選ばれた</p> <p>BC30 ローマによって征服される</p>	<p>アラム</p> <p>アッシリア</p> <p>ナバテヤの遊牧民の王バダエゼル、アンモン人を支援して、イスラエルに干渉、オプサス朝のアラム人と同盟、オプサス朝を倒す。アラム人、再興。</p> <p>バダエゼルの実家系レシオン</p> <p>シロのアビヤ</p> <p>レシオンが王の聖所から排除された(?)</p> <p>ペンハダド一世(800-?)</p> <p>二王と同一人物とする説もある</p> <p>アッシュール・ナサル・パル二世(883-859)</p> <p>ニムド建設、遷都</p> <p>シャルマナセル三世(859-824)</p> <p>バダエゼル(?-842、ペンハダド二世)</p> <p>BC853 カルカの戦いで同盟軍を率いてアッシリアを撃退する</p> <p>BC852 イスラエルに侵襲する。アハズが戦死</p> <p>バダエゼル(842-806)</p> <p>ユダ王国のヨシヤ朝</p> <p>BC815 イスラエルに侵襲する</p> <p>イスラエルはアラムの支配下に</p> <p>バダエゼルの子ペンハダド</p> <p>イスラエルの占領地を失う</p> <p>アッシリアに敗れ、弱体化。</p> <p>アダド・ニラリ三世(811-783)</p> <p>後継者たちは無力だった</p> <p>ティグラトピレセル三世(745-727)、「バブル」</p> <p>国境拡張政策1740年頃にアラム・パレスチナ方面を職業軍人の常備軍を配置</p> <p>BC728 アラム滅亡</p> <p>バビロニア</p> <p>BC729 アッシリアの直接支配下に</p> <p>シャルマナセル五世(726-722) 北王国を征服</p> <p>サルゴン二世(721-705) 北王国の生存者を強制</p> <p>センナリブ(705-681)</p> <p>BC689 アッシリアに敗北</p> <p>ペルシアに</p> <p>新バビロニア</p> <p>ナボネツル(625-605)</p> <p>ネブカドネツル(605-562)</p> <p>805 ユダを支配下に</p> <p>メディア王国(515-550)</p> <p>キュアクセス(625-585)</p> <p>メディア人はペルシヤ人と同化していく</p> <p>エズラ・メロダク(542-538)</p> <p>ナリシス(539-539)</p> <p>バベル(539-539)</p> <p>大ネボ(539-530)</p> <p>BC538 キロスの勅令(ユダヤの帰還を承認)</p> <p>カビセ(530-522)</p> <p>ダレイオス一世(522-486) 東洋は頂点に。</p> <p>ケセル(486-465)</p> <p>アルタセル(464-424)</p> <p>マケドニア → ヘレニズム 前編</p> <p>アレクサンドロス三世(336-323)</p> <p>BC334 即位</p> <p>民族結婚による異民族融合の統合を促した。</p> <p>ギリシア文化をギリシアの諸要素と結合し、ヘレニズム文化の基礎を作った。</p> <p>アレクサンドロスの死後、その何人かがが総督として対立あつて対峙</p> <p>BC188 アンティオコス五世が、ローマと対立して対峙</p> <p>セルクソス四世(187-175) 暗殺される</p> <p>アンティオコス四世とパトラス(175-164)</p> <p>ヘレニズム文化の60年進歩を中止し、それはユダヤ人内部の分裂を拡大、加速。</p> <p>168、168 エジプト連征</p> <p>168→ユダヤ教の激しい迫害を行った</p>	

← 侵略
 ← 敵対
 ← 同盟
 ← 活動期間

* 王の名前に続く括弧内は王位にあった年代。
 * 名が**この色**の王は、契約の更新を行った王。
 * 名が**この色**の王は、預言者に油を塗られた王。
 * 年代は原則として『聖書時代史 旧約篇』(山崎武雄)に従った。

作成:バウロ異野玄範 2009/7/18